

[1] 疾病発生状況調査

目的

へい死量の把握、主に年間のへい死の動向を明らかにする。

方 法

石垣島のスッポン養殖場3ヶ所（U・I・S）に記録用紙を準備し、へい死を記録してもらった。

また、少なくとも月に一度は各養殖場をまわり、水温・PH・DOを調べた。

結果及び考察

へい死量は表1に示したとおりで、U養殖場はほとんどへい死がなく、I・S両養殖場は8月下旬ごろからへい死が目立ちはじめた。

S:49年からのへい死状況を考え合せると、へい死の動向は、冬眠あけの2月～4月ごろの水温が20℃を越えて上昇する時期と9～11月ごろの水温が30℃を割って下降する時期にへい死のピークがみられる。

冬眠あけのへい死は、大分県内水試（1975）の報告にみられる5月中旬の冬眠あけのへい死と同様の原因であろうか、9～11月にかけてへい死は他の報告にはない。

8月下旬から10月にかけてS養殖場でへい死したスッポンからの分離菌は表3のとおりである。

各養殖場の水質は各々1池のみ測定し、表2に示した。PHは7～10で、U養殖場は他の養殖場より高かった。DOもU養殖場が高いが、いずれの養殖場も過飽和であった。7～8月ごろの夏場はへい死量も少なく、水質的にも安定的であった。

以上のようにスッポンのへい死の動向は水質だけでは説明できず、水中・地中菌の動向を探る必要があろう。

表-1 各養殖場におけるスッポンへの死量

月および旬	5			6			7			8			9			10			11			12				
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
U 免育段階	相 成 龟	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I 相 成 龟	相 成 龟	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	4	2	1	1	1
S 相 成 龟	相 成 龟	59	38	26	42	33	18	4	1	15	460	590	-	56	164	150	125	52	39	34	22	22	49	43	43	43

表-2 各養殖場の水質

測定項目	測定月日												測定月日												測定月日										
	1/20	2/16	3/15	4/15	5/15	5/19	6/3	6/15	7/7	7/16	8/20	9/9	9/21	10/25	11/12	12/8	1/13	1/20	2/16	3/15	4/15	5/15	5/19	6/3	6/15	7/7	7/16	8/20	9/9	9/21	10/25	11/12	12/8	1/13	
W.T.(°C)	180	250	220	-	-	355	336	-	298	246	320	296	290	250	210	170	166	W.T.	180	270	250	263	-	357	329	284	28.8	314	325	306	291	241	215	170	165
U PH	7.3	7.2	6.5	-	-	10.4	10.1	-	9.9	10.2	9.5	9.8	9.6	7.6	8.2	8.7	8.2	D.O.(PPM)	9.0	10.4	3.8	-	-	15.3	15.1	-	16.4	15.8	13.1	14.5	10.5	5.4	9.9	11.6	9.7
I DO	124	175	182	16.4	-	15.3	15.1	7.4	7.2	12.3	13.5	15.7	12.4	10.2	6.4	8.4	11.1	W.T.	190	245	230	27.7	27.3	-	324	30.0	290	330	320	29.7	28.8	25.1	24.3	18.7	168
S PH	8.3	8.4	7.4	10.0	9.2	-	9.2	8.4	8.7	9.4	8.9	8.8	9.1	8.4	8.7	7.8	9.0	DO	12.8	17.6	7.5	13.9	12.3	-	10.4	9.0	2.8	11.5	11.5	11.8	12.0	10.8	11.5	11.2	13.0